

CIESF Leaders Academy Grade 5

SDGsってなに？

カンボジアの首都プノンペンにある CIESF Leaders Academy (CLA) の5年生は、「SDGsを知っていますか？」をテーマに、自分たちの学校や社会、世界にある課題について学び、調べたことを発表しました。日本語学習にも取り組む彼らが、未来の目標として掲げられているSDGsについて、自分たちの言葉で説明しました。

学びのはじまり：SDGsってなに？

はじめに、クラス内で行ったアンケートでは、5年生の約80%が「SDGsを知らない」と回答。自分たちも同様に「聞いたことがあるけどよくわからない」という感覚を持っていました。そこで、先生と一緒に「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」について学び、カンボジアも参加している世界的な取り組みであることを知りました。

特に、目標4「質の高い教育をみんなに」に注目し、教育を受けられないことがもたらす問題について、身近な視点で深く考えました。

チームでの調査と発表

児童たちは「調査チーム」と「情報チーム」に分かれて学習を進めました。

調査チームは、CLA内でSDGsの認知度調査を実施。6年生では認知度が高い一方、1～4年生では約90%が「知らない」と答えました。6年生では日本人に教えてもらって、多くの人がSDGsを知っていました。

情報チームは、関心のある目標についてインターネットで調べました。たとえば、目標2「飢餓をゼロに」では、砂糖の多い食生活が健康を損なう現状について、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」では、女の子が「女の子だから」という理由で学校に行けない現実を知り、不平等について考えました。また目標6「安全な水とトイレを世界中に」では、カンボジアの農村部では今も川や池の水を使っており、それが衛生や環境に問題をもたらしていると発表しました。

カンボジア独自の18番目の目標

発表の最後には、カンボジア独自の「18番目の目標」についてのクイズが行われました。その正解は、「地雷や戦争による爆発物をなくすこと」。現在も東京ドーム約68個分の面積に約28,000個以上の地雷が残っているという事実が紹介されました。

未来への展望

SDGsについて調べていく中で、世界にも、そして自分たちの住むカンボジアにも多くの課題があることに気づいた児童たち。2030年までにみんなで協力してこれらの問題をなくしていきたいと語り、自分たちにできることを考え、「やってみる」ことを大切にしたいという前向きなメッセージで発表を締めくくりました。